

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101623
法人名	株式会社 メデカ・ジャパン
事業所名	水戸ケアセンター そよ風
所在地	茨城県水戸市見和 1-298-9 (電話)029-309-1281

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年7月12日	評価確定日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	14.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(140,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田口同仁クリニック 榊歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に位置する都市型のホームは、近郊に交通量の多い幹線道路やさまざまなショッピングエリアを擁している。しかし、そうでありながら、ホーム自体は閑静な環境に包まれ、穏やかさと同時に、地域との触れあう機会に恵まれた立地環境にあるといえる。また、ホームはデイサービスセンターと併設している。隣接している関連福祉事業所との有機的な連携も図れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を経て、その結果から改善に取り組み、既存の福祉サービスの質を高めようという姿勢は見られるが、具体的な取り組みにまで至っていない。今後は、利用者や家族にきちんと知らしめることができるような具体的な取り組みを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が協力して、自己評価に取り組んでいる。自己評価と外部評価の結果は、職員皆で目を通している。また、評価結果について、運営推進会議や職員会議の議題にあげて、皆で確認と話し合いを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	偶数月、隔月に運営推進会議を実施している。利用者や家族の代表者、学識者ら多数の方が会議に参加している。会議録は利用者や家族が手にとって目を通せる場所に開示している。自己評価や外部評価の結果も、運営推進会議の議題としてあげられ、発表されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームオリジナルの広報誌「そよ風だより」や「月間報告書」を毎月作成、配布して、家族に利用者の近況報告等を行っている。また、文書のみならず、家族の面会時での口頭報告や電話などで、その都度、利用者の日々の様子などを家族に伝えている。年2回、家族会を実施し、家族同士の交流を図ると共に、家族がホームに気兼ねなく意見できるような環境を醸成している。また、ホーム内に意見箱を設置し、匿名でも意見できるような配慮を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	随時、近隣の方々のボランティアを受け入れている。保育園児の来訪や、地元運動会への参加など、積極的な地域交流を図っている。地元小中学生の職場体験の場としてホームを提供したり、地域住民向けの講座を開催したりと、さまざまな地域貢献活動にも努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	市街地内に設置された都市型のグループホームとしての個性を活かし、地域とのふれあいを重視した地域密着型サービスの理念を打ち立てている。基本となるフレーズは「その人らしさの生活」であり、ホームはそれの尊重と支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や会議を活用して、全職員皆で理念を共有し、職員が理念を念頭にしてケアにあたるよう、組織全体で取り組んでいる。介護基本知識手帳なるオリジナルの発行冊子を全職員が所有し、その都度理念を確認できるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	随時、近隣の方々のボランティアを受け入れている。保育園児の来訪や、地元運動会への参加など、積極的な地域交流を図っている。地元小中学生の職場体験の場としてホームを提供したり、地域住民向けの講座を開催したりと、さまざまな地域貢献活動にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が協力して、自己評価に取り組んでいる。自己評価と外部評価の結果は、職員皆で目を通して。また、評価結果について、運営推進会議や職員会議の議題にあげて、皆で確認と話し合いを行っている。	○	評価を経て、その結果から改善に取り組み、既存の福祉サービスの質を高めようという姿勢は見られるため、さらに具体的な取り組みを実現されたい。今後は、利用者や家族にきちんと知ら示すことができるような具体的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月、隔月に運営推進会議を実施している。利用者や家族の代表者は、学識者ら多数の方が会議に参加している。会議録は利用者や家族が手にとって目を通せる場所に開示している。自己評価や外部評価の結果も、運営推進会議の議題としてあげられ、発表されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護に関する事項や介護保険に手続きに関する事項について、随時、市町村の担当部局と連絡をとりあっており、利用者の実状に即した必要な連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームオリジナルの広報誌「そよ風だより」や「月間報告書」を毎月作成、配布して、家族に利用者の近況報告等を行っている。また、文書のみならず、家族の面会時での口頭報告や電話などで、その都度、利用者の日々の様子などを家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会を実施し、家族同士の交流を図ると共に、家族がホームに気兼ねなく意見できるような環境を醸成している。また、ホーム内に意見箱を設置し、匿名でも意見できるような配慮を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が生じた場合は、利用者にとって馴染み深い職員との別れによる精神的負担を最小限とするよう、レクリエーション的なイベントを企画、実施している。また、異動後のふれあいや交流の機会を確保し、利用者との職員の関係が途切れないような配慮を行っている。		職員の入職、異動、退職の際には、利用者を含め家族にも説明や紹介(例えば広報誌を用いて)をされることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の頻度で社内研修を実施し、社外研修にも積極的に職員を派遣している。社外研修参加職員は、研修後、社内の会議等において研修報告を行い、学んできた知識や技術を、職員皆で共有できるように努めている。また、隣接している関連事業所の協力を得て、随時勉強会も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常日頃、業務内容に関するさまざまな問題や課題について同グループ内事業所で検討を繰り返し、改善に努めている。また、水戸グループホーム協議会に加入し、他事業所との交流を通じた情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を検討したり、希望する方があれば、ホームは随時見学可能であり、その都度個別に案内を行っている。希望があれば体験入居も可能となっている。また、馴染みをもって入居およびサービス利用に至るよう、何度も職員が面談の場を設定して、納得、安心が自然と生まれるような対応となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が、共に支えあう関係のもとホームの生活を営めるよう、なによりもまず「話し合い」「伝え合い」を重んじている。決して押し付けにならないよう気をつけながら、協働して生活場面に取り組めるようなかかわりを展開している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を可能な限り汲み取るため、日頃のかかわりの中で、あるいは何気ない仕草から、1つ1つ職員皆で話し合いながら把握を行っている。利用者主体のケアを実践するために、常に利用者の思いや意向の把握の検証に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしく」をモットーに、利用者主体の介護計画の策定に取り組んでいる。手続きとしては、利用者とも最も接点の多い職員がニーズを整理し、具体的な素案を作り、それをまとめる職員と協働して何度かすり合わせを行う。その過程のいづこかで利用者本人ないし家族の意見を取り入れ、最終的に同意を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	専用のモニタリングシートを用いて、定期的に介護計画の実施状況とそれに対する評価を記入し、整理している。その整理に連動して、必要に応じてカンファレンスを実施したり、プランの微調整を行ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスセンターが企画しているデイプログラムへの参加、同グループ内他事業所からの福祉用具や福祉車両のレンタルによる外出支援強化、地域住民にも開かれた福祉関連講座の開催と参加など、多彩な展開がなされている。利用者の利益につながるさまざまな取り組みがみられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者の希望を尊重して把握ないし対応している。また、それ以外にも、協力医療機関のバックアップにより、定期的な看護師訪問の受け入れ、昼夜を問わない医療連携が整備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期における対応については、「経口摂取が可能であればケアをさせて頂く」という方針をとっている。		ホーム側の、利用者の重度化や終末期ケアに対する考え方は家族会等を通じて、ある程度明らかにされている。今後は、その方針の明文化がなされ、利用者や家族からの問い合わせがあれば懇切丁寧かつ具体的な説明がなされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者とかかわる際、利用者の人権や尊厳を尊重することを前提とした言葉遣い、ふるまいを徹底している。また、利用者の個々の記録は、鍵付きのキャビネットに管理して個人情報の漏洩を防いでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の営み方については、日課を強要することなく、利用者ひとりひとりの希望や、長年の習慣を尊重した対応を行っている。ホームの強調する理念である「その人らしく」に基づいた対応を、随時、利用者を交えて職員皆で話し合って見定めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に至る調理、盛り付け、配膳、片付けの過程において、なるべく職員と利用者が共になって取り組めるように努めている。また、職員と利用者が並びあい、味付けや献立について話し合いながら食事をし、楽しめる雰囲気を出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日14時以降が入浴時間となっており、利用者は希望の順番で入浴できるようになっている。利用者の体調は、その都度健康チェックによって把握され、気持ちよく入浴できるよう配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしりや水やり、掃除や調理、裁縫など、利用者ひとりひとりに合わせた役割や楽しみごと、気晴らしのための過ごし方や行動を支援している。そのため、常日頃から、利用者の意向や好みをしっかり汲み取れるような意識的なかわりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に即した月行事を企画し、県内各地への外出支援の充実化を図っている。行事以外においても、近郊への散歩やドライブ、あるいはショッピング等、利用者の気分や意向に即した気軽な外出を積極的に実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はせず、利用者が自由に行き来できる居住空間を整えている。但し、夜間のみ、防犯上の兼ね合いで施錠している。施錠は、夕方の17時半から翌日の朝8時半までとなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、総合防災訓練を行い、避難訓練・消火訓練・救急救命訓練、夜間想定訓練を実施している。訓練は近隣の他事業所と連携・協力の元で実施されている。災害用食料及び水の備蓄も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりの栄養状態に即した献立を、栄養士が作成している。また、利用者個々の嗜好や体調に基づいた諸変更を柔軟に行い、栄養摂取を支援している。また、チェックシートを用いて、利用者ひとりひとりの水分摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、「清潔」「換気のよさ」「和やかな雰囲気」をテーマに、居心地の良さを演出している。インテリアや利用者の趣味・生きがい活動の作品展示などが、くどすぎずほど良く室内を彩り、さりげない華やかさをもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで慣れ親しんできた家具や、愛用品を居室に持参されるよう、本人や家族に薦めている。なるだけ、居室が利用者にとって居心地のよい空間となるよう、家族の協力をあおぎながら努めている。		